

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900154	事業の開始年月日	H21年4月1日
		指定年月日	H21年4月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター樽町		
所在地	(222-0001) 神奈川県 横浜市 港北区 樽町 4-9-30		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	H28年11月18日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、家族の方と信頼関係を構築し、その人達が家庭的な環境で過ごせるように努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年12月12日	評価機関 評価決定日	平成29年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、東急東横線綱島駅から徒歩で約20分、バスで約8分のバス停から徒歩3分ほどの所にある。2階が1ユニットのグループホームで、1階には同法人の運営する通所介護、居宅介護支援、訪問介護の事業所が併設されている。辺りは住宅地に町工場が点在し、程よい大型商業施設があつて、散策や買い物ができるの外出に適している。</p> <p>【理念に基づく利用者本位のケア】 管理者と職員は「ここは、樽町家…すべての人が、笑顔で楽しく過ごせる家」という理念を共有しており、利用者が、事業所を我が家、職員を家族のように思い、いつも笑顔で楽しく暮らしていけるようなケアの実践に努めている。職員は、忙しいときでも常に心に余裕を持って笑顔で利用者に接し、優しく声をかけて思いや希望を聞き取って、一人ひとりの意向に沿った支援を行っている。</p> <p>管理者は、日頃から職員や家族の意見を聞いている。家族の希望や意見を出来るだけ把握して、散歩や外出の機会を増やすなど、サービスに反映させている。職員は、運動機能の低下した利用者の歩行介助の方法について提案したり、職員全員で、個々の仕事のタイムテーブルを作成し、相互評価して、ケアサービスや作業内容の改善に努めている。</p> <p>職員同士の連携が良く、一方で利用者のケアや誘導に手がかかっている際には、状況を読みとった他の職員が即座にサポートする様子が見て取れた。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター樽町
ユニット名	ほほえみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示し職員で共有しています。利用者様が今現在暮らしてる場所が過ごしやすいように意識しながら活動しています。	職員の着任時に、設立以来の「すべての人が、笑顔で楽しく過ごせるようケアをする」という趣旨の理念を説明している。職員は、笑顔をもって言葉遣いに気を配って接することを第一に考えて、理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は地域の祭りや美化活動に参加するようにしました。	町内会に加入し、地区の美化活動に利用者や職員が参加したり、地域の祭りの見物に行っている。週1回、傾聴ボランティアが来訪している。1階の通所介護事業所に手品や紙芝居、ダンスなどのボランティアが来た際には、一緒に参加している。1階のフロアを使ってニチイ祭りを行い、地域の方が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ今年には行ってませんが、当事業所の祭りで認知症ケアの紹介を行う予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っています。家族、ケアプラザ職員の意見をいただき、活動に活かせるように努めています。	運営推進会議は、2か月ごと開催し、町内会長、民生委員、利用者、家族、地域包括支援センター職員などが参加している。事業所の運営や人事異動、活動状況の報告の後、意見交換をしている。家族から、散歩や外出が足りないとの意見があり、車椅子利用の方にも対応して散歩や外出を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の高齢支援課に月1、2回で出向き情報提供しています。	港北区の高齢者支援課からは空き情報の問合せがあったり、生活保護課とは、生活保護費受給者への訪問面接の際に、意見や情報を交換している。地域ケアプラザの研修に職員が参加している。港北区役所の催しに職員が同行して利用者が参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で職員間で共有しています。必要時は家族に説明し承諾を受ける。	運営規定や契約書などに、身体拘束をしない介護の方針を明記し、入居時に説明している。身体拘束排除の職員研修を実施している。車椅子利用者は時折、ベッドなどに移乗し休んでもらっている。フロア入り口は施錠していない。玄関は、1階の通所介護の送迎時と夜間は、施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で職員間で共有しています。ミーティング等で意見をだしあい防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の利用者が後見人制度を利用。一部の職員が関係性までは理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明は当然行う。後日問い合わせがある時は、その都度説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。運営推進会議時にいただいた意見をミーティング時で共有し活用している。	家族からの意見は、運営推進会議や電話のやりとりの際に聞き取っている。法人の顧客満足度アンケートの内容は、事業所にフィードバックされ、ホーム会議などで話し合っ共有している。家族から、遠方への外出をしてほしいとの希望があり、その実施について検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングで職員の意見を聞く機会を設けてる。	管理者は、職員がミーティングなどで意見や提案を出しやすいように配慮している。個別面談は、新人は3か月目から年3回、現任は年1回行い、希望や意見を聞いている。職員の提案で、利用者の席順の変更やケア方法の改善を行っている。職員同士で各自のタイムスケジュールを検討し、業務の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度、資格手当。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修資格取得の機会を設けてる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	支店で月1回ホーム長会議を開催してる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで、本人、家族の要望を伺い安心できるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心配事を事前にうかがい、解消できるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何を必要としているかを見極め、活用に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事等を行い、お互いに話し合える関係性を構築できるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やお手紙などで必要時には連絡をとっています。些細な体調変化などでも報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の話にでてくる人や場所を丁寧に聞き取り、本人様がこちよく活動できるように努めています。	旧知の友人などから電話があった場合は、事務室の電話で対応している。手紙や年賀状は、本人に見せてから家族に送付している。馴染みの人などの来訪時には、リビングなどへ案内し、茶菓でもてなしている。家族の了承を得て、一緒に外出することもある。訪問美容院が定期的に来訪して、利用者と馴染みの関係になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活なので相性はあると思います。席等の調整は職員で行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベントの案内等を行っています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの過程を聞き、ケアプランに反映させています。	利用者の思いや意向の把握は、初回アセスメントを中心に行っている。日常のケアサービスの際に、意思の疎通を図り言葉を交わしたり、相手の表情や仕草を観察して汲みとっている。意思の疎通が困難な場合は、家族と話し合って把握している。把握した事柄は、アセスメントに記録して職員同士で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで把握するが、それだけで全て分かるとは言いきれません。サービス経過表は作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回の申し送りで見守り利用者の状態を職員で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から意見を聞き、モニタリング、サービス担当者会議等が出た案をケアプランに反映させています。	介護計画は、本人の心身状況や家族の希望を聞き取り、課題やニーズを抽出して作成している。計画の目標や具体的なサービス目標は、コンパクトに絞り込むことで職員が認識しやすく実施状況を記録しやすくしている。支援経過記録を基に、モニタリングや評価を行っている。計画の見直しは、3か月から6か月、状況に変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録をつけ、出勤時には必ず目をとおす。変化に気づき意見をだしてもらうことでケアプランの更新に活用できます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応できてるかわかりませんが、本人様、家族様の相談にのり、解決できるようにこころがけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と買い物に出かけたり、移動販売などを活用しています。訪問美容やマッサージを希望する方、家族には紹介しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が現在変更になって、約1年経過しますが、利用者様は安心して受診を受けてると思います。	協力医の往診は月2回、看護師が同行して行っている。週1回、協力医療機関の看護師2名が来訪し、健康管理や医師の指示によるケアを行っている。家族が契約した訪問歯科医と歯科衛生士が、月1回訪問して口腔ケアや診療を行っている方もいる。看護師とは24時間オンコール体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携で来る看護師の方に、些細な変化でも伝えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院で行われるカンファレンスには参加させていただきます。退院時には入院先の看護師に介護指導をいただくようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をしています。家族の意向にそえるように医療とも連携を図っています。	「重度化した場合における対応に係る指針」を、契約時に説明し同意を得ている。重度化が進み医師が看取りケアが必要と判断した場合は、家族に医師から直接話してもらうことにしている。看取りを希望する場合は、医師、家族、事業所が話し合っ同意を得て、実施する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングで共有し緊急時の対応ができるよう努力はしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を年2回行い、地域の方にも参加していただいています。	防災訓練は、消防署立ち会いの下、年2回併設の通所介護事業所と合同で、火災時の総合訓練やAEDの訓練を実施している。地域の消防団の協力や、町会長の参加を得ている。災害備蓄は、飲料水、食料品、カセットコンロ、おむつなど3日以上を保有し、管理表による回転備蓄を行っている。	年2回の訓練のうち、少なくとも1回は夜間想定訓練を実施することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重し、行動、声掛けのマナーに気を付けています。	接遇や声かけの研修を実施している。職員が、家族に本人のプライバシーに関する話を話す場合は、相談室を利用している。言葉による制止や、あからさまな排泄誘導を行わないよう気を配っている。リビングで使う個人記録は、職員詰所に閉じて置いている。個人情報に含まれる書類は、事務室の施錠できる戸棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け方法に気を配り、自身で選択できるように気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそえるように努力はしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい物を着てもらっています。選べない方には職員が助言し着てもらっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者様になってしまいますが、一緒に行っています。拒否をする方もいますのでむりにはおすすめしません。	法人の栄養士が献立をつくり、食材は、職員が利用者と一緒に外へ出て購入している。調理は職員が行い、利用者は、下ごしらえ、配膳や下膳を手伝っている。ほとんどの方が座位を取って自力で食べ完食している。職員は、介助、見守りを行っている。毎年バーベキューを行い、クリスマスや誕生会には寿司の出前を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎回記録に残し、状態を把握できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回3食後に行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	残存機能をなるべく活かし、トイレで排泄できるように声かけを行っています。	トイレは3か所設置され、うち1か所は車椅子対応である。職員が清掃し、臭いもなく清潔である。排泄ケアは主として、チェック表を基に定時誘導している。自力で行く人もいる。夜間は、おむつパットを吸収の良いものに替え、睡眠を優先している。目を覚ました方は、見守りや誘導を行ったり、おむつ交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療連携の看護師にも相談し、予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	2日おきくらいで入浴していただいています。希望される方は日をおきずに入ってもらっています。	入浴は原則として週3回とし、午前中に行っている。希望があれば、毎日入浴できる。体調などにより、シャワー浴や清拭に変えることもある。入浴を好まない利用者が多く、やむを得ずシャワー浴のみで清潔を保つことがある。暖房器具を設置してヒートショックを防いでいる。菖蒲湯や柚子湯で季節感を楽しめる機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけをさせていただき、休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングで共有し、誤薬がおきないようにダブルチェックするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもってもらう事で、生活にメリハリをつけていると思います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には難しいのが現状です。地域の催しなどには参加するよう心がけています。その際家族の方にも声をかけさせていただいています。	天候が許すかぎり、毎日買い物を兼ねて散歩をしている。地域ケアプラザの無料の催しものへ参加することもある。体調により、日当たりが良いベランダへ出て、花を見て楽しんだり日光浴したりしている。移動販売のパン屋が近くに来るので、外に出て買い物をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金を事業所で管理しています。使いたい時はそちらから出しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話する人はなかなかいませんが、かかってきた時は、出れる方には出ていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節で飾りの工夫などしています。	リビングは広くソファやテーブルがゆったり配置され、利用者はそれぞれの場所で寛いでいる。椅子の座面が回転する構造で、杖を使用して立ったり座ったりしやすい。一隅には、クリスマスツリーなど季節の飾り付けがあり、壁には、塗り絵、折り紙が飾られている。清掃は職員が行い、手伝う利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所にソファを置き1人でもいれるような工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の私物をもってきてもらい部屋に飾ってもらっています。	居室は、入口に花がプリントされた紙の表札があり、部屋を間違えないように工夫されている。空調設備、照明器具、収納設備、防災カーテンが備えられ、利用者は、ベッドやタンス、テレビなど使い慣れた家具類を持ち込み、自分らしい部屋にしつらえている。職員が部屋の清掃を行い、衣類の整理や着替えを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印などをつけ、場所が分かりやすいようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 二千イケアセンタ-横田

作成日 2017年 3月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害対策として年2回 非難訓練を行って いるも、夜間を想定 した訓練が行って いない。	年2回の訓練中、1回 は夜間を想定した 訓練を行うようにする。	協力していただく機関 (消防署、消防団)とみ 連携を図り、夜間を 想定した訓練を行う。	12ヵ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。